神戸大学交響楽団
第36回定期演奏会

1986年12月23日(火)
於:神戸文化ホール(大)
p.m.7:00開演

後援　兵庫県　兵庫県オーケストラ協議会　神戸市民文化振興財団　神戸新聞社

PROGRAM

劇音楽「エグモント」序曲 Op.84……ベートーヴェン

指　揮　本村公玄

コンサートマスター　柴川斉子

バレエ音楽「三角帽子」より 第2組曲……ファリャ

指　揮　金　洪才

コンサートマスター　柴川斉子

1．隣人たちの踊り

2．粉屋の踊り

3．終幕の踊り

―――― 休　憩 ――――

交響曲 第2番 ニ長調 Op.73 ……ブラームス

指　揮　金　洪才

コンサートマスター　柴川斉子

Ⅰ．Allegro non troppo

Ⅱ．Adagio non troppo

Ⅲ．Allegretto grazioso—Presto ma non assai

Ⅳ．Allegro con spirito

プロフィール

客演指揮　金　洪　才
（キム・ホンジェ）

1954年10月10日、兵庫県生まれ、兵庫県内の朝鮮初、中、高級学校で12年間民族教育を受ける。朝鮮高校で音楽を李鐘石氏に、後に作曲と民族音楽を李喆雨氏に師事・桐朋学園大で指揮を堤俊作、秋山和慶、小沢征爾、森正の各氏に師事。

1978年３月、東京シティ・フィル特別演奏会でデビュー。12月、桐朋学園オーケストラ第49回定期演奏会で指揮。1972年９月、第14回民音国際指揮コンクールで２位と初めての特別賞（斎藤秀雄賞）を合せて受賞、入賞記念コンサートで各地の主要オーケストラと６都市で協演し注目を集める。1979年10月、朝鮮民主主義人民共和国を訪問し、朝鮮国立交響楽団を指揮し、録音もした。1979年５月大阪フィルハーモニー交響楽団、1980年４月、名古屋フィルハーモニー交響楽団、1980年４月、九州交響楽団の“朝鮮管弦楽特集”演奏会で指揮し、大好評を博す。1980年６月、テレビ番組「オーケストラがやってきた」400回記念、新専属指揮者オーディションで２百数名の中からえらばれ話題となる。1981年１月、ＮＴＶ日本テレビ系「私の音楽会」（読響）の専属指揮者にも就任すると共に、各地のオーケストラを客員指揮し、内外の著名なソリストとも協演した。1985年３月、同胞音楽家の協演による“ハン・ギョレ”コンサートに出演し話題となる。1986年４月、ピョンヤンで行なわれた“四月の春音楽会”に参加し、朝鮮国立交響楽団を指揮した。

近年は、各地で若いソリストとの協演や、全国の大学オーケストラ、青少年オーケストラ、アマチュアオーケストラなどの客員指揮も意欲的に行なっている。

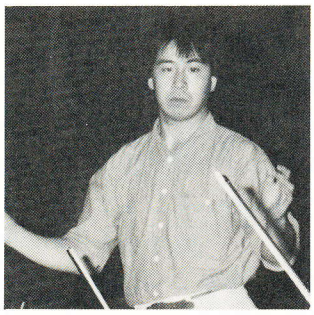
現在、東京シティフィルハーモニック管弦楽団指揮者、名古屋フィルハーモニー交響楽団指揮者。

トレーナーの先生方

西内　泉（大阪フィル・ビオラ奏者）

有馬博隆（甲陽学院教諭・オーボエ奏者）

以上の先生方に御指導いただきました。この場をかりて御礼申し上げます。



学生指揮　本　村　公　玄

本村氏は、Ｖａのはみ子である。が、かといって、他のパートに席をおくわけでもなく、４年間「流浪」しつづけたのである。

そして、巧みな話術を使っては、地下組織をひろげていったのである。筆者も、彼の甘い言葉にだまされ、今だに足を洗っていない。彼は、まず、合宿で後輩たちに「スケベな話」を、集中的に講義し「洗脳」させるのである。そして、我々の神経をまひさせた状態にさせて、演奏させるのである。それで最近、軽くながす曲でもやたらいやらしくひきたくなる始末である。

彼は視力が0.1以下と非常に弱い。それで、嗅覚・聴覚など、五感すべてを使って、男女を区別し、女性に一人びきをさせ、苦しめて喜ぶのである。彼の持ち味である「スケベさ」のおかげで、かえって皆の共感をえて、うまく皆をまとめてこられたように思うのである。

このプロフィールは、彼の一番の親友であった故小南氏に書いてもらうことを楽しみにしていただけに、非常に残念に思われていることでしょうが、彼の長い音楽経験の中で感じてきたさまざまな思いをもりこんで、力いっぱい指揮してくれることでしょう。

皆さん、彼の熱棒にご注目下さい。彼の最後の指揮に、盛大な拍手をお願いいたします。